

令和5年度 WWL（ワールド・ワイド・ラーニング）金沢大学・金沢大学附属高等学校
北陸コンソーシアム構築支援事業

金沢大学 金沢大学附属高等学校 WWL コンソーシアム構築支援事業 研究報告書

第5年次

令和6年6月

国立大学法人金沢大学
金沢大学人間社会学域学校教育学類附属高等学校

目 次

第 1 章 令和 5 年度 WWL コンソーシアム構築支援事業の取組概要と総括

第 2 章 実施報告書

1. 金沢大学附属高等学校 総合的な探究の時間「探究ゼミ」の活動報告
2. 金沢大学附属高等学校 総合的な探究の時間「探究基礎」の活動報告
3. NJC との海外交流
4. ミライシコウ金沢

第1章 令和5年度WWLコンソーシアム構築支援事業の取組概要と総括

1 事業の実施期間

令和5年4月1日 ～ 令和6年3月31日

2 事業拠点校名

学校名 金沢大学人間社会学域学校教育学類附属高等学校

学校長名 南波 聡

3 構想名 持続可能な世界を実現し、Society5.0を牽引するグローバル・リーダーの育成

4 構想の概要

本構想は、北陸圏域の高等学校、海外の高等学校、関連する機関により「北陸ALネットワーク」を形成し、組織的・継続的に“持続可能な世界を実現し、Society5.0を牽引するグローバル・リーダー”を育成するものである。

拠点校において実施してきたスーパーグローバルハイスクール事業（以下：SGH）の課題探究型課程をベースに、国内外の連携校等における取組や各校が立地する地域の異なる経済・文化・歴史等の社会的背景も含めた多様な視点、協働機関による専門的視点からの指導等を取り入れることにより、深化させた教育カリキュラムを展開する。さらに、高校生の段階から金沢大学が有する海外ネットワーク等も活用した国際性と、アドバンスト・プレイスメント（以下：AP）による高い知識を身に付けさせる取組を加え、社会が抱える複雑な課題に立ち向かう“新たなグローバル・リーダー”育成モデルを確立し、広く全国へと発信する。

5 教育課程の特例の活用の有無

無し

6 管理機関の取組・支援実績

（1）実績の説明

① 国内外のネットワーク強化

令和6年3月に実施したミライシコウ金沢（高校生国際会議および高校生探究成果発表会）を開催し、それを通して、福井県立高志高等学校、小松高等学校、シンガポール NJC、仙台城南高等学校、仙台二華高等学校、金沢泉丘高等学校、金沢大学附属高等学校、金沢西高等学校、金沢錦丘高等学校、金沢二水高等学校、京都先端科学大学附属高等学校、大聖寺高等学校、高岡高等学校、東京学芸大学附属高等学校、東京学芸大学附属国際中等教育学校、七尾高等学校、藤島高等学校とも連携体制を構築した。

また、ミライシコウ金沢の高校生探究成果発表会における助言者・審査員として、金沢大学を中心として、国連大学サステナビリティ高等研究所いしかわ・かなざわオペレーション・ユニット、北陸先端科学技術大学院大学、北海道武蔵野女子短期大学、福井大学、等に所属する専門家が参画する体制を構築し、ネットワークを強化した。さらに、令和2年度にオンライン上に構築したプラットフォーム(e-museum)において、課題研究等の成果物を掲載し、情報発信を開始した。

② アドバンストプレイスメント（AP）の実施

新たな AP の開発

管理機関である金沢大学において、令和4年度から学域等への科目等履修生の出願資格に「高等学校等に在学している者」を加え、高校生が大学教育を履修するための制度を導入し、より高度な学びを希望する高校生が大学において学習できる環境を整備した。令和5年10月には、研究開発拠点校の生徒5名が、科目等履修生として金沢大学に入学し、人間社会学域法学類「ルールリテラシー」、人間社会学域学校教育学類「教職と学校」、医薬保健学域薬学類「生体の構造」、国際基幹教育院共通教育科目「スポーツ科学 スポーツ生理学入門Ⅰ」、「スポーツ科学 スポーツ生理学入門Ⅱ」、「グローバル時代の社会学」、「スポーツ科学 スポーツ栄養学」といった科目を履修した。

③ 既存事業を活用した AP の実施

管理機関である金沢大学における既存事業を活用した AP として、「日本数学 A-lympiad」や「グローバルサイエンスキャンパス」（以下 GSC）を実施しており、北陸圏のみならず、岐阜県、長野県、埼玉県、横浜市等の高校生も参加している。

④ 財政等支援

管理機関である金沢大学の自主財源等により、AP として日本数学 A-lympiad や GSC を実施した。また、本事業の持続的な実施に向け、昨年度に引き続き、拠点校において、グローバル・リーダー育成基金を運用している。

7 研究開発の実績

(1) 実施日程

月	探究ゼミ活動	外部との連携	探求基礎
4 月	〈1 年生・2 年生探究ゼミ〉 ・探究ゼミのエントリーセッション ・探究ゼミを構築すること ・自身の興味に基づいた探究を大まかに捉えること 〈3 年生探究ゼミグローバルキャリアパス〉 ・最終探究活動活動	・金沢大学人間社会学域との連携 ・連携校への顔合わせ	探究基礎 〈探究とは？本校の探究についてのオリエンテーション〉 〈先輩の探究から学ぼう〉
5 月	〈1 年生・2 年生探究ゼミ〉 ・課題を設定するために問題を発見したり、テーマに関連する情報を収集すること 〈3 年生探究ゼミグローバルキャリアパス〉 ・最終探究活動活動	① 課題の設定 ・金沢大学人間社会学域との連携 ・連携校との交渉 ・がん進展制御研究所との連携（がん研究体験プログラム実施のため）	探究基礎 〈興味・関心のある言葉を引き出そう〉 〈マンダラートで言葉を広げよう〉
6 月	〈1 年生・2 年生探究ゼミ〉 ・課題を設定するために先行研究を整理すること ・最終探究活動活動	・NJC(シンガポールナショナルジュニアカレッジ)との連携スタート	探究基礎 〈先行研究の調べ方とは〉 〈情報を集めよう〉
7 月	〈1 年生・2 年生探究ゼミ〉 ・設定した課題に対して、常に問いを立て直し、先行研究を整理すること ・最終探究活動活動	・金沢大学がん進展制御研究所（がん研究体験プログラムの設計に関する打ち合	探究基礎 〈フィールドワークとは？〉 〈PC スキルアップ〉

	・自身の探究活動のまとめ ・学びの履歴書・設計書の作成		わせ)	
8月	〈1年生・2年生探究ゼミ〉 フィールドワーク	② 情報の 収集	・連携校との探究デ ィスカッション	
9月	〈1年生・2年生探究ゼミ〉 ・フィールドワークで得た知見をもとに、設定した課題 をより焦点化して考える		・連携校との探究デ ィスカッション	探究基礎 〈研究倫理について〉 〈FACTFULNESS（批 判的視点の育成）〉
10月	〈1年生・2年生探究ゼミ〉 ・設定した課題を解決するための研究方法を設計する		・連携校との探究デ ィスカッション	探究基礎 〈あんけーと〉 〈理想のパワポ〉
11月	〈1年生・2年生探究ゼミ〉 ・他者と学びを共有することによって、新たな知見を得 て、自身の探究を見直す機会を得る（中間発表会など）。	③ 整理・ 分析	連携校との探究ディ スカッション 金沢大学留学生の協 力	探究基礎 〈よりよいプレゼンテ ーションとは？〉 〈理想のポスター〉
12月	〈1年生・2年生探究ゼミ〉 ・設定した課題を解決するための研究方法を実践する		連携校や県内協力校 との連携（ミライシ コウ金沢のため）	探究基礎 〈プレゼンテーション実 践〉 〈深める・論じる〉
1月	〈1年生・2年生探究ゼミ〉 ・得られた結果を分析し、考察を深め、自分の考えをま とめる。		県外協力校との連携 （ミライシコウ金沢 のため）	探究基礎 〈ファシリテーターにつ いて〉 〈教員による研究論①〉
2月	〈1年生・2年生探究ゼミ〉 ・自身の探究をまとめ、他者と学びを議論することによ って、自身の探究をより深める機会を得る。（学びの共 有の日）	④ まとめ・ 発表	金沢大学教授への助 言・審査依頼（ミライ シコウ金沢のため）	探究基礎 〈よいコメントペーパー とは〉 〈教員による研究論②〉
3月	〈1年生・2年生探究ゼミ〉 ・自身の探究を振り返り、活動の価値を整理し、自分の 考え方を再構築すること		外部への助言・審査 依頼（ミライシコウ 金沢のため） 〈ミライシコウ金沢 （高校生探究成果発 表会および高校生国 際会議）〉	探究基礎 〈振り返り〉

（２）実績の説明

（２）－１ 探究カリキュラムの開発

① 探究ゼミの展開

拠点校での総合的な探究の時間における目標は、以下に示す資質・能力を中心に、さらに細分化された種々の資質・能力をそれぞれの探究ゼミの中で育成することである。

- ・情報を分析し、筋道を立てて考え、正しく判断する力
- ・言葉を大切にし、言葉を磨き、対等に対話する力
- ・行動を起こし、広く社会に発信する力

それぞれの探究ゼミにおいては、各ゼミで育成する資質・能力を選定するとともに、それをどう評価し育成していくかを考えて、各自でカリキュラムを考えていく。

この探究ゼミ全体として、質の高い探究活動、多様な探究テーマによる全体の学びの活性化、生徒と生徒の協働性の向上という意義がある。

また、それぞれの探究ゼミにおいては、以下のプロセスを実現することを目指す。

【課題の設定】日常生活や社会に関する疑問や興味をもとに、自ら課題を見つける。

【情報の収集】課題の中にある具体的な問題について情報を収集する。

【整理・分析】情報を整理・分析する、知識や技能に結び付ける、考えを出し合ったりするなど問題の解決に取り組む。

【まとめ・表現】明らかになった考えや意見などをまとめ・表現し、更なる問題の解決を始める。

② 探究ゼミの詳細

- ・各教員がゼミを開講する方式とする。生徒は全員、いずれかのゼミに所属する。
- ・ゼミの「テーマ設定」や具体的な「運営方法」は各教員の判断で行う。特に「テーマ」に関しては、教員が提示せず生徒が任意の課題に取り組める「自由探究ゼミ」としてもよい。
- ・探究の期間を高校1年4月～高校3年7月を基本期間として考える。
- ・原則、所属したゼミの変更がないように留意する。
- ・学びの共有の日（2月）で、1年間のゼミ内の探究活動の最終報告の場をもつ。

1. 文学ゼミ

ex：里山資本主義 ～地方主体の経済へ～

2. 教育ゼミ

ex：教室構造と学習効果

3. 歴史学ゼミ

ex：戦争体験を紡ぐ～戦争体験者聞き取り記録集～

4. 現代アートゼミ

ex：現代アートの文脈に基づいた作品作成活動

5. 社会学ゼミ

ex：里山資本主義 ～地方主体の経済へ～

6. 実験体験数学ゼミ

ex：現代版ユークリッド原論を作ろう

7. 「人と数学」ゼミ

ex：音楽と数学の美しさについて～音律の違いに着目して～

8. 計算科学ゼミ

ex：ペットボトルフリップを成功させる方法

9. 共通テスト数学作問ゼミ

ex：共通テスト（現実事象の数学化など）を作ろう

10. サイエンスゼミ

ex：校内無線 LAN の電波強度とルーターの設置場所の研究

11. 生物・農学ゼミ

ex：切り花を長持ちさせるには

12. 自由探究ゼミ

ex：附属学校特別支援と附属高校のコラボクッキーの作成

13. スポーツ（文化的側面）ゼミ

ex：マラソンが地域に与える影響とは

14. スポーツ科学ゼミ

ex：バレーボールのサーブのフォームの研究

15. 医学部探究ゼミ

ex：予防医学のすゝめ～食の改善～

16. 言語探究ゼミ

ex：オノマトペの言語研究～日英比較研究～

17. 英語探究ゼミ

ex：高校生のスピーキング力を高めるには

～リスニング×シャドーイングの観点から～

18. 学校生活探究ゼミ

ex: ユースセンターをよりよくするために

さらに、NJC との協働研究を行う生徒たち（N組）においては、Zoom 等を活用したテレカンファレンスを 4 回行った。国を超えて、共通のテーマに向かって、議論を交わし、より深い探究になるように協力してきた。最後に、研究に関する論文とビデオプレゼンテーションを交換した。

また、2 月に校内で「学びの共有の日」として、拠点校内で全員対象の探究成果発表会を開催した。

3 月には、ミライシコウ金沢として、県内外の高校生が参加する「高校生探究成果発表会」を開催し、学校の枠を超えて生徒同士が自らの探究や学びを発表し合い、交流を行った。「探究成果発表会」には、助言者・審査員として、金沢大学を中心として、国連大学サステナビリティ高等研究所いしかわ・かなざわオペレーション・ユニット、北陸先端科学技術大学院大学、北海道武蔵野女子短期大学、福井大学、等に所属する専門家が助言者・審査員として参画し、専門的知見を含む多様な知見による学びを深めた。また 1、2 年生の研究成果についてはプラットフォーム「e-museum」にまとめ、情報発信を行った。

「グローバル・キャリアパス」では、自己の特徴を認識し、高校 3 年間のさまざまな「学び」を踏まえて、自己の将来像を構想し、そこに到達するキャリアパスを考えることをねらいとし、「学びの履歴書」に 2 年間の経験と学びをまとめ、「学びの設計書」に自己の分析と、将来の目標設計を作成した。生徒は、今までの学びをポートフォリオ的にまとめることによって、どのようなことを経験し、何ができるようになったかを自覚することができた。

③ 探究基礎の開発・実施

拠点校において、探究の理論的な内容を開発するために、令和 4 年度から「探究基礎」として総合的な探究の時間の中で、授業を実践している。具体的には、1 年次に探究を推し進める上で必要となるスキルやコンピテンシー、マインドセットを教授するものである。令和 5 年度には、「ファシリテーションスキル」、「良いコメントをする力」、「ポスター作製スキル」、「アンケート作成スキル」、の習得を目的とした授業を展開した。

(2) - 2 国内外の高校とのネットワークによる活動

① 海外との協働研究

拠点校教員と生徒が中心となり、Slack や Zoom 等を活用して、NJC と情報交換や意見交換を行い、連携を更に強化するとともに、NJC と「Comprehensive Approach to Contemporary Social Problems」というテーマで協働研究を展開している。令和 5 年度も、例年通り実施し、これで 4 期目の実践となった。

主なタイトルは、次のとおりである。

- better voting better life
- Gender and Carrer
- Special Support Education and Inclusive Education
- How can we prevent the mass disposal of second-hand clothing?

また、令和 5 年度においては、国内外から 20 校が参加し、ミライシコウ金沢（高校生探究成果発表会および高校生国際会議）を、金沢大学にて対面開催した。＜石川県内＞からは、金沢泉丘高校、金沢西高校、金沢錦丘高校、金沢二水高校、小松高校、大聖寺高校、七尾高校、遊学館高校、金沢大学附属高校、＜石川県外＞からは仙台城南高校（宮城県）、仙台二華高校（宮城県）、

上田高校（長野県）、東京学芸大学附属高校（東京都）、東京学芸大学附属国際中等教育学校（東京都）、高岡高校（富山県）、高志高校（福井県）、藤島高校（福井県）、京都先端科学大学附属高校（京都府）、田辺高校（京都府）、シンガポール National junior college。高校生探究成果発表会に 230 人、高校生国際会議に 33 人、高校生ファシリテーター 50 人、合計 279 人の高校生、引率教諭 28 名が参加した。

（２）－３ 海外研修/アジア高校生架け橋プロジェクトにおける海外高校生受入

① 海外研修

令和５年度は、拠点校及び連携校において、各校が設定する課題研究に応じ、ディスカッション等で深めた知見を基に、高校生が適地においてフィールドワーク等を実施する海外研修を予定していたが、海外渡航費の高騰の影響により、海外渡航を取りやめた。

② 架け橋プロジェクト受入

令和５年度は、アジア高校生架け橋プロジェクトについて、拠点校における本プロジェクトに係る留学生受入はなかった。令和６年度においては、拠点校において、国からの提案に応じ、「アジア高校生架け橋プロジェクト」での留学生を受け入れ、当該留学生に国内での多様な経験を積ませる活動を展開する。

（２）－４ 高校生国際会議の開催

① 高校生国際会議の開催

管理機関主催で、拠点校を中心に国内外の高校生や社会人が参加し、高校生国際会議を「ミライシコウ金沢」と題して、金沢大学で実施した。学校や教科の枠組みを越えて、特定のテーマについて、より深く学ぶことを開催の趣旨・目的とした。

高校生国際会議 Youth and Climate Action Conference＞

① 開催の趣旨・目的

気候変動に関する政策立案や国際会議で活躍できる未来のグローバルリーダーに必要な知識と経験を身につける。若者の意義のある意思決定の場の創出をサポートする。気候変動問題の緊急性と長期的な影響が認識される中、この分野での若者（ユース）の参画の場は特にアジア圏では限られている。これからの未来を担うユースが気候変動というグローバルな問題に向き合い、その影響や原因、解決策について深く理解することが重要とされており、彼らの学びと行動が持続可能な未来を築く鍵となる。

② 内容

午前の部 Global to Local 気候変動に関する講義

午後の部 ワークショップ

（グループごとに各国の代表として気候変動の交渉を行うシミュレーションゲーム）

企画は国連大学サステナビリティ高等研究所いしかわ・かなざわオペレーション・ユニットが中心となって企画し、参加者がディスカッションを行った。延べ 33 名が参加し、高校生が議論を通じて、自己とのつながりや問題の本質を明確化し、学びの深まりに繋がった。

８ 目標の進捗状況，成果，評価

・管理機関における進捗状況・成果

前年度の課題「組織全体としての取り組みが必要であることが顕在化してきた。つまり、拠点校のみならず、管理機関も主体的に事業に携わり、拠点校と連携して事業を運営しないと、持続可能な学びの深まりを実現できない」に対して、令和５年度においては、特に、ミライシコウ金

沢について、大学との共催を目指した。昨年度は、「学校教育学類の協力」という声のもと、学校教育学類との共催を考えたのだが、より難しくなってしまった。依頼したのは「10人の助言者をいろいろな学部を超えて集める」ということだったが、それが難しそうに見えた。最終的には10人集めることは成功した。しかし、だいぶ前に依頼したものの、話がそれ以降全く進んでいなかったため、直前に無理やり人を集める形となってしまった。

印象として、「大学の先生」は一人一人が研究者であるがゆえに、「大学の先生」に他の「大学の先生」を動かす、それを依頼すること自体が、そもそも難しそうなお印象を受けた。どこか「学域を超えて一つのイベントを実現することが得意な大学の部署」はないだろうかと考えさせられた。「管理機関が主体的に事業に携わる」ということが、非常に難しい問題であると感じた。

また、高大接続にかかるAPについては、すでに記載のとおり、これまで管理機関で実施している事業を引き続き行うとともに、令和3年度から学域等の科目等履修生の出願資格に「高等学校等に在学している者」を加え、高校生が大学教育を履修するための制度を全学で導入し、より高度な学びを希望する高校生が大学において学修できる環境を整備した。令和5年10月には、研究開発拠点校の生徒5名が、科目等履修生として金沢大学に入学し、人間社会学域法学類「ルールリテラシー」、人間社会学域学校教育学類「教職と学校」、医薬保健学域薬学類「生体の構造」、国際基幹教育院共通教育科目「スポーツ科学 スポーツ生理学入門Ⅰ」、「スポーツ科学 スポーツ生理学入門Ⅱ」、「グローバル時代の社会学」、「スポーツ科学 スポーツ栄養学」といった科目を履修した。

・拠点校における進捗状況・成果

拠点校においては、令和5年度も1年次から3年次に通貫したカリキュラム開発として、「探究ゼミ」という探究の形を引き続き実践した。外部への発表件数の推移を以下のようにまとめた。それを見ると、徐々に発表する機会が増え、全体的なレベルアップができていると判断している。

探究の外部発表 発表件数・発表者数の推移										
主催		発表会名	令和 2 年		令和 3 年		令和 4 年		令和 5 年	
			発表件数	発表者数	発表件数	発表者数	発表件数	発表者数	発表件数	発表者数
文部科学省	文部科学省	WWL フォーラム	1	3	1	4	1	2	1	2
各県教育委員会	福井県教育委員会	福井県合同課題研究発表会					2	5		
大学主催	関西学院大学	探究の集い (旧 WWL・SGH 甲子園)	1	1			1	1		
	東京学芸大学	東京学芸大学 SSH/SGH/WWL 課題研究成果発表会	2	7	2	2			6	8
	金沢大学	ミライシコウ金沢(高校生探究成果発表会部門)					12	25	31	46
		ミライソウゾウコンテスト							1	1
	名古屋大学	名古屋大学 2023 年度 WWL 生徒研究発表会							1	2
高校主催	京都先端科学大学附属高校	京都先端科学大学附属高校探究成果発表会							1	2
	長野県上田高校	北陸新幹線サミット							4	4
	小松高校	令和 5 年度 究める課題研究発表会 in KOMATSU							3	3
学会発表・科学賞他	全国高校生マイプロジェクト実行委員会	マイプロジェクトアワード							4	6
	Glocal Academy	国際シンポジウム	1	1			1	3		
	SGDs QUEST 未来甲子園北陸エリア大会								8	16
主な受賞									✓ミライシコウ金沢探究奨励賞 数学・情報部門 ✓ミライシコウ金沢探究奨励賞 保健・多様性・共生部門 (×2) ✓ミライシコウ金沢探究奨励賞 国際部門 ✓ミライシコウ金沢探究奨励賞 人文科学部門 (×2) ✓ミライシコウ金沢探究奨励賞 地域課題・観光部門 ✓ミライシコウ金沢探究奨励賞 教育部門 ✓ミライシコウ金沢探究奨励賞 化学・生物部門	

					✓ミライシコウ金沢探究奨励賞 物理・ものづくり部門 ✓大学生による中学生のための SDGsサステナビリティアワ ード最優秀賞 ✓SGDs Q U E S T みらい甲子園 北陸エリア大会最優秀賞 ✓高校生SDGsサステナビリ ティコンテスト金賞 ✓社会共創コンテスト2023奨 励賞 ✓全国高校生マイプロジェクトア ワード2023地域summit特 別賞 ✓東京学芸大学SSH/SGH/ WWL課題研究成果発表会 S GH・WWLポスター部門優秀 賞 ✓金沢大学ミライソウゾウコンテ スト審査員特別賞 ✓第11回高校生ビジネスプラン ・グランプリベスト100 ✓名古屋大学2023年度WWL 生徒研究発表会生物学発表優秀 賞
--	--	--	--	--	--

9 次年度以降の課題及び改善点

・管理機関における課題及び改善点

令和5年度は感染拡大の状況を注視しながらプラットフォーム（e-museum）等を活用し、自走によりネットワークの拡大・強化を図るとともに、事業を継続的に実施するための基盤の整備等を行うこととしたい。

・拠点校における課題及び改善点

WWL 事業として学校間連携の強化

昨年までのミライシコウ金沢を中心としたコミュニティを維持することができた。

今年度、新たに金沢コンソーシアムということで、金沢泉丘、金沢二水、金沢錦丘などの学校とともに、探究交流会を10月17日に実施するなど、より濃い交流が生まれてきた。それによって、お互いの探究活動についての悩みやスタイルを話しあった。各学校には、各学校の探究スタイルがあり、悩みや要望も様々で、少しずつ、理解しあってきた時期のように考えられる。

グローバル教育をいかに促進するかの問題

今年度のミライシコウ金沢では、国連大学サステナビリティ高等研究所いしかわ・かなざわオペレーション・ユニットの協力のもと、国際会議を開くことができた。オールイングリッシュで行うこととなったが、オールイングリッシュかどうかよりも、グローバルな問題に触れて、地球規模で物事を考える経験ができたことが財産である。

今後の課題として、この国際会議のあとの活動で、いかに世界に生徒たちがはばたいていくか、この国際会議をきっかけに生徒たちがグローバルな経験を積むことができるように、期待している。

管理機関と拠点校全体で取り組むことの難しさ

昨年度から課題となっていることだが、やはり組織全体として取り組むことは難しい。

昨年度は、主催が学校教育学類という形に一度なったものの、最後は金沢大学が主催となるなど、二転三転する展開となった。まだまだ、協働の形が見えない段階である。今後、以前よりも、お互いがよりコミュニケーションをとって、主体的に意見を持ち、全体で意見を交換するような

場を生み出していくことが必要であるとする。

第2章 実施報告書

1 探究カリキュラムの開発

① 目的

ゼミ全体の包括する総合的な探究の時間における目標は、本校の学校目標「①激動が予想される2030年に向け、「地球サイズの教育」を実践し、学校創設以来の校訓「自主自律の精神を身に付けたグローバルに活躍できる異才を育成する」、②自ら課題を見つけ、主体的に解決に挑む姿勢をもち、広く社会に貢献できる人材を育成する」ことを前提に、以下に示す資質・能力を中心に、さらに細分化された種々の資質・能力を各ゼミの中で育成することである。

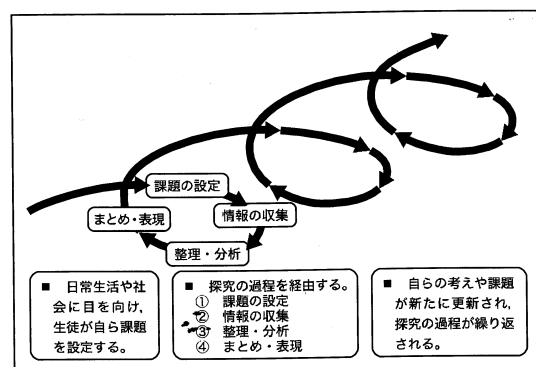
学校目標の中で掲げられている特に身に付けたい力

- ・情報を分析し、筋道を立てて考え、正しく判断する力
- ・言葉を大切にし、言葉を磨き、対等に対話する力
- ・行動を起こし、広く社会に発信する力

各ゼミにおいては、自分のゼミで育成する資質・能力を選定するとともに、それをどう評価し育成していくかを考えて、自身のゼミのカリキュラムを考えていく。

この探究ゼミでは、質の高い探究活動、多様な探究テーマによる学校全体の学びの活性化、生徒と生徒の協働性の向上という意義がある。

探究における生徒の学習の姿



② 探究のプロセス

(参考：文部科学省
高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説より）

【課題の設定】

日常生活や社会に関する疑問や興味をもとに、自ら課題を見つける。

【情報の収集】

課題の中にある具体的な問題について情報を収集する。

【整理・分析】

その情報を整理・分析したり、知識や技能に結び付けたり、考えを出し合ったりしながら問題の解決に取り組む。

【まとめ・表現】

明らかになった考えや意見などをまとめ・表現し、更なる問題の解決を始める。

③ 探究活動に関する確認事項

ゼミ運営について

- ・探究ゼミ（金曜6限を指す）は各教員がゼミを開講する方式とする。生徒は全員、いずれかのゼミに所属する。
- ・ゼミの「テーマ設定」や具体的な「運営方法」は各教員の判断で行う。特に「テーマ」に関しては、教員が提示せず生徒が任意の課題に取り組める「自由探究ゼミ」としてもよい。
- ・探究の期間を高校1年4月～高校3年7月を基本期間として考える。
- ・原則、所属したゼミの変更がないように留意する。
（生徒からゼミを変更したい旨があっても、ゼミの変更は原則認めない。ゼミを変更せずにやる内容を変更する等、ゼミの先生と相談して対話によって解決することを目指す。）

提出物について

- ・高校1・2年生での探究活動における「共通の提出物」はない。
- ・E-museumについて

E-museumのリンクは、以下の通り。

<https://p-room.online/public/?key=vBrpLh3grVmsOKJ4>

希望する場合は、E-museumに成果物をアップすることができる。（ただし、指導教員の承諾を得たもののみとする。）

④ 学校全体のイベント

1. エントリーセッション4月
1年生対象のオリエンテーション。4月末に、1年生は興味のあるゼミの見学に行き、その後、希望調査を行う。
2. ゼミ合同中間発表会
希望するゼミを対象とした中間報告の場。令和5年11月17日（金）に研究大会の中で実施。
3. 学びの共有の日
1年間のゼミ実践の最終報告の場。令和6年2月16日（金）午前に実施。

⑤ 評価

【評価の観点】

- ① 知識・技能
課題に関する概念的知識を獲得し、よりよい課題解決のために必要な技能を身につけている。
- ② 思考力・判断力・表現力
日常生活や実社会から問いを発見し、探究的な視点や考え方から課題を立て、情報を収集・整理し、発表している。
- ③ 主体的に学習に取り組む態度
協働的に課題の解決に取り組み、そこから得た学びを自己形成に生かしている。

【評価の対象となる活動】

- ・高校1年生：4月～3月までの間のゼミによる探究活動。
- ・高校2年生：4月～3月までの間のゼミによる探究活動。

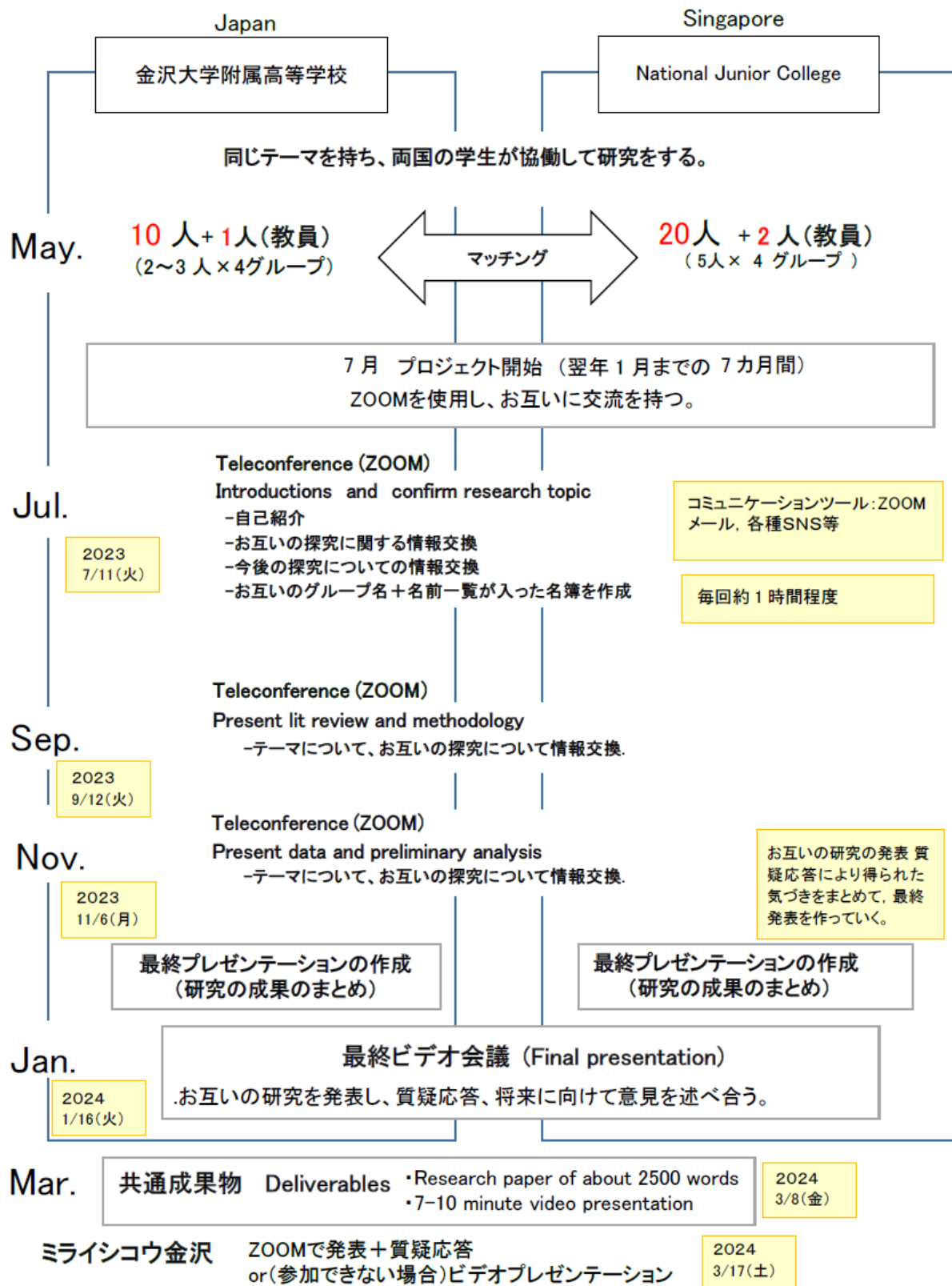
2 探究基礎

R5 探究基礎 カリキュラム(前期) 20230425ver.				
WEEK	テーマ・担当者	形式	育成したいキーコンピテンシー	
4月第2週【4月14日(金)】	『アイスブレイク』NASAゲーム →終了後、6限:オリエンテーション	クラス単位 (各担任)	協働性	【探究の導入】 探究のために必要な力をつける。
4月第3週【4月21日(金)】	『先輩の探究に学ぼう。』①② ①2年勝見・佐藤・白江「overtourism」 /②2年金子・釜谷「ボトルフリップのシミュレーション」 →終了後、6限:エントリーセッション①	120人一斉 研究部2名+教員3名 (担任)@有朋館	マインドセット 主体性	
4月第4週1【4月24日(月)】	『先輩の探究に学ぼう。』③ 3年青野「創り物のつくり方」 /エントリー方法の説明(外山) →終了後、6限:エントリーセッション②	120人一斉 研究部2名+教員3名 (担任)@有朋館	マインドセット 主体性	
4月第4週2【4月28日(金)】	『探究の基本を学ぼう。』① 課題探究メソッド『p25興味・関心のある言葉を引き出そう。』+プロのプロセス『1議論のまとめ方』10分視聴	120人一斉 (柿島)@有朋館	協働性 自己理解	
5月第2週【5月12日(金)】	『探究の基本を学ぼう。』② 課題探究メソッド『p39-42課題設定の方法』+プロのプロセス『11企画書の書き方(マンガラートのみ)』『5課題の見つけ方』15分視聴	120人一斉 (外山)@有朋館	計画性 論理的思考力 自己理解	
5月第4週【5月26日(金)】	『探究の基本を学ぼう。』③ →宿題『p42研究テーマを決めよう。』を読んで、 <u>テーマ決め用紙はゼミ担当教員へ提出させる。</u>	120人一斉 (外山)@有朋館	計画性 論理的思考力 自己理解	【探究の実践】 探究実践のために必要な力をつける。 講演予定(LHRでの実施かも) 5~6月 佐藤智哉 准教授(金沢大) 7/26水 Global Leader Crosstalk(三谷産業)
6月第1週【6月9日(金)】	『探究の基本を学ぼう。』④ 『p58先行研究・事例から現状を把握しよう。』 +プロのプロセス『情報の集め方』10分視聴	120人一斉 (宮崎)@有朋館	データ収集	
6月第3週【6月16日(金)】	『探究の基本を学ぼう。』⑤ 『p77アンケート調査』『フィールドワークの仕方』 +プロのプロセス『8アンケートの作り方』『9インタビューのしかた』20分視聴	120人一斉 (判・外山)@有朋館	データ収集	
6月第4週【6月23日(金)】	PCスキル①	クラスごと×3コマ (斎藤)	データ解析	
7月第2週【7月14日(金)】 45分授業	PCスキル②	クラスごと×3コマ (斎藤)	データ解析	

R5 探究基礎 カリキュラム(後期) 240109ver.					
9月第1週【9月1日(金)】 始業式	FACTFULNESS	120人一斉 (塚田先生+担任3名) @HR教室	批判的思考力 協働性 自己認知	塚田 真喜志 柿島 北野	【探究の具体化・深化】
9月第2週【9月8日(金)】	教員による研究論①	40人一斉 @各HR教室 (ZOOM)	責任 研究倫理 データ解析 キャリア プレゼン力 協働性 傾聴力 自己認知 表現力 論理的思考力	酒井 (北野)	
9月第3週【9月15日(金)】	教員による研究論②	40人一斉 @各HR教室 (ZOOM)		宮崎 真喜志	
9月第4週【9月22日(金)】	教員による研究論③	40人一斉 @各HR教室 (ZOOM)		外山 赤松	
10月第1週【10月6日(金)】	教員による研究論④	40人一斉 @各HR教室 (ZOOM)		室谷 白山	
10月第3週【10月20日(金)】	教員による研究論⑤	40人一斉 @各HR教室 (ZOOM)		渡會	
11月第2週【11月10日(金)】	〈後期新人戦日程のためなし〉				
11月第3週【11月17日(金)】	教員による研究論⑥ 研究大会	40人一斉 @各HR教室 (ZOOM)		柿島 判	
11月第4週【11月24日(金)】	教員による研究論⑦	40人一斉 @各HR教室 (ZOOM)		辻岡 塚田	
1月第2週【1月12日(金)】	よいコメントペーパーとは	120人一斉 @有朋館美術室	批判的思考力	外山	
1月第3週【1月19日(金)】	ファシリテーターについて	40人一斉 @各HR教室	傾聴力	金森 宮崎	
1月第4週【1月26日(金)】	プレゼン準備	40人一斉 @各HR教室		HR担任	
2月第1週【2月2日(金)】	プレゼン練習・オーディエンス練習① 4人班を×10班つくる。 4人班の中の2人が発表。	40人一斉 @各HR教室	プレゼン力 批判的思考力	HR担任	
【2月6日(火)】	プレゼン練習・オーディエンス練習② 4人班×10班つくる。 前週発表しなかった2人が発表。	40人一斉 @各HR教室	プレゼン力 批判的思考力	HR担任	
2月第3週【2月16日(金)】 学びの共有の日	本番				
【2月20日(火)】	学びの共有の日 振り返り	40人一斉 @各HR教室	振り返り		
【3月16日(金)】	(ミライシコウ金沢@金沢大学角間キャンパス)	発表希望者	振り返り		

3 海外交流

金沢大学附属高校とNJCの協働研究



National Junior College and Kanazawa University Senior Highschool

Project Proposal for Collaborative Study 2023

1. Possible Projects

(i) Research question: What can we do in order to increase “Food self-sufficiency rate” ?

- Check differences in young people’ s awareness of agriculture among countries
- Check each country’ s issues in agriculture
- Check each country’ s projects for agriculture
- Check the possibility of Japan/Singapore introducing SMART agriculture

	NJC	KUSHS
Students	4 students	2 students (16-17 years old)

(ii) Research question: Differences in sexual awareness among young people

- Check how young generate sexual awareness in each country
- Check each country’ s gender stereotype

The team members are especially trying to grasp how gender stereotypes affect people having relationships. Also they want to check whether the government policy can affect people’ s having sexual awareness.

	NJC	KUSHS
Students	4 students	2 students (16-17 years old)

(iii) Research question: Tourism

	NJC	KUSHS
Students	4 students	2~3 students (15-16 years old)

(iv) Research question: Migration

	NJC	KUSHS
Students	4 students	2 students (15-16 years old)

2. Proposed timeline

Jul	Teleconference in the fourth week
Aug	
Sept	Teleconference in the middle of Sept
Oct	
Nov	Teleconference in the fourth week
Dec	

Jan	Teleconference in the fourth week
Feb	
Mar	Teleconference

Teleconference will be delivered through ZOOM.

【Schedule】

We would like to have the first teleconference in the fourth week of July. We'd really appreciate if students have at least first contact through SLACK before the first teleconference.

【Communication means】

We would like to use "Slack" in order to exchange our ideas and opinions.

If you agree to using Slack, we will make a work space for the project on Slack and we will let you know. (We need all the members' email addresses)

【The goal】

Exchange ideas/opinions, expand views, and Express and explain what has been done as the final presentation

4 ミライシコウ金沢

また、令和5年度において、主催を金沢大学、主管を金沢大学附属高等学校として、国内外から20校が参加し、ミライシコウ金沢（高校生探究成果発表会および高校生国際会議）を、金沢大学にて対面開催した。＜石川県内＞からは、金沢泉丘高校、金沢西高校、金沢錦丘高校、金沢二水高校、小松高校、大聖寺高校、七尾高校、遊学館高校、金沢大学附属高校、＜石川県外＞からは仙台南高校（宮城県）、仙台二華高校（宮城県）、上田高校（長野県）、東京学芸大学附属高校（東京都）、東京学芸大学附属国際中等教育学校（東京都）、高岡高校（富山県）、高志高校（福井県）、藤島高校（福井県）、京都先端科学大学附属高校（京都府）、田辺高校（京都府）、シンガポール National junior college。高校生探究成果発表会に230人、高校生国際会議に33人、高校生ファシリテーター50人、合計279人の高校生、引率教諭28名が参加した。

1. 主催・主管

主催 金沢大学

共催 国連大学サステイナビリティ高等研究所いしかわ・かなざわオペレーティング・ユニット
主管 金沢大学附属高等学校

2. 会場 金沢大学 自然科学大講義棟，自然科学本館（〒920-1192 石川県金沢市角間町）

3. 日時 令和6(2024)年3月16日(土)

9:00 ~ 9:30	受付
9:30 ~ 9:50	開会行事・全体会
10:00 ~ 11:55	プログラムA・B 午前の部
11:55 ~ 13:10	昼休憩（教員による探究ランチョンミーティング）

13 : 10 ～ 15 : 05	プログラム A・B 午後の部
15 : 15 ～ 15 : 25	閉式行事

4. プログラム(以下、すべてのプログラムを対面形式での実施とし、海外交流校のみオンライン対応とする)

プログラム A 高校生探究成果発表会

① 目的

- ・生徒が自ら探究した成果を発表し、大学教員などの専門家から評価を得ることで、各自の探究を更に深化させる機会とする。
- ・生徒が主体的に意見交換を行うことで、互いに知見を深めるとともに交友関係を広げる機会とする。
- ・高校と大学が連携して生徒の課題研究を支援し評価することを通して、育成すべき資質・能力を不断に見直し、教育課程の改善に資する機会とする。

② 分科会

- | | |
|-------------------|------------------|
| 1. 人文科学（文化・芸能・歴史） | 2. 生活（家庭・衣食住・経済） |
| 3. 地域課題・観光 | 4. 教育 |
| 5. 国際（使用言語は英語のみ） | 6. 保健・多様性・共生 |
| 7. 環境・防災 | 8. 化学・生物 |
| 9. 物理・ものづくり | 10. 数学・情報 |

③ 時程

- ・午前の部 10 : 00 ～ 11 : 55 午前6発表

10 : 00～10 : 15	第1ターム
10 : 20～10 : 35	第2ターム
10 : 40～10 : 55	第3ターム
11 : 00～11 : 15	第4ターム
11 : 20～11 : 35	第5ターム
11 : 40～11 : 55	第6ターム
- ・昼食休憩
- ・午後の部 13 : 10 ～ 15 : 05 午後6発表

13 : 10～13 : 25	第7ターム
13 : 30～13 : 45	第8ターム
13 : 50～14 : 05	第9ターム
14 : 10～14 : 25	第10ターム
14 : 30～14 : 45	第11ターム
14 : 50～15 : 05	第12ターム

④ 形式

- ・各分科会12発表。
- ・1発表につき15分（発表8分 質疑応答7分）。
- ・発表形式は、ポスター形式またはパワーポイントによる発表。

⑤ 探究奨励賞

- ・分科会ごとに1～2本探究奨励賞が準備されます。
- ・表彰状は後日郵送します。

プログラムB 高校生国際会議 Youth and Climate Action Conference

① 開催の趣旨・目的

気候変動に関する政策立案や国際会議で活躍できる未来のグローバルリーダーに必要な知識と経験を身につける。若者の意義のある意思決定の場の創出をサポートする。気候変動問題の緊急性と長期的な影響が認識される中、この分野での若者（ユース）の参画の場は特にアジア圏では限られている。これからの未来を担うユースが気候変動というグローバルな問題に向き合い、その影響や原因、解決策について深く理解することが重要とされており、彼らの学びと行動が持続可能な未来を築く鍵となる。



② 時程

- ・ 午前の部 10:00 ～ 11:55

Global to Local 気候変動に関する講義（COP28 の成果、日本や石川県でのアクション、課題解決について）

- ・ 午後の部 13:10 ～ 15:05

ワークショップ（グループごとに各国の代表として気候変動の交渉を行うシミュレーションゲーム）

③ 対象

- ・ 使用言語：英語
- ・ 高校1年生・高校2年生



探究ランチョンミーティング

参加した学校の教員で、探究に関するランチョンミーティングを行う。少人数のグループに分かれて意見交換をしながら、日頃の探究活動をどのように行っているかなどの情報交換を行い、各学校における探究教育活動を見つめ直す機会を得ることを目的とする。



- ① 時程 12:00 ~ 13:00
- ② 対象 各学校の教諭

5. 募集人数および申し込み方法

① 募集人数

プログラムA 高校生探究成果発表会の申し込み数は以下の通りです。

発表申し込みは、上限3枠まで申し込むことができます。ただし、同じ分科会の申し込みの上限を2枠とします。(運営の都合上、可能な限り、異なる分科会に申し込んでいただけると幸いです。)



プログラムB 高校生国際会議の申し込み数は1校当たり生徒最大3名参加可能です。

② 申し込み方法

第0次申し込み(2月7日(水)まで)

各学校における申し込み担当教諭の情報を登録します。

登録を確認次第、第1次申し込み用のファイルを担当者様へお送りします。

右の-googleフォームより登録してください。

(第0次申し込みをいただいても、貴校で参加者が得られないなど参加を辞退される

場合は、以下の手続きは不要です。)



第1次申し込み(2月14日(水)まで:Aプログラム・Bプログラムともに同じ申し込みファイル)

第1次申し込みエクセルファイル(申し込み担当教諭に事前にメールにて送信)に必要事項(発表者氏名, 発表タイトル, 国際会議参加者氏名, 探究協議会参加者氏名など)を記載して, 以下のメールアドレスに送信する。

申し込み先メールアドレス:
kushs.staff1947@gmail.com

第2次申し込み(3月1日(金)まで: 高校生探究成果発表会のみ)

第2次申し込みエクセルファイル(申し込み担当教諭に事前にメールにて送信)に必要事項を記載して, 所定の発表概要(200字)ファイル+発表用資料(パワーポイント資料など)を期日までに以下のメールアドレスに送信する。(e-museum にアップロードし, 助言者に事前に閲覧できるように準備します。)

申し込み先メールアドレス:
kushs.staff1947@gmail.com

6. 移動手段と交通費について

- ・金沢市外に住所のある学校を対象に, 当日, 金沢駅から金沢大学へのバスを手配します。金沢市外に住所のある学校の参加者であれば, 乗車人数に制限はありません。(バス利用の申し込みが想定した人数を下回った場合には, 市内の学校に対しても, 可能な範囲でご乗車いただけるように調整させていただきます。)

金沢駅西口バスターミナル

第1便 7時30分出発

第2便 8時30分出発予定

金沢大学 15時45分出発予定



7. 個人情報の扱い

- ・本プログラムの実施にあたり、生徒の活動を撮影し、ホームページや研究冊子に掲載させていただくことにご理解、ご承諾いただきますようお願い致します。
- ・成果発表会の発表者は、発表概要と発表用資料をすべてe-museum(オンライン上の成果物閲覧集)にアップロードさせていただくことにご理解、ご承諾いただきますようお願いいたします。e-museumは、ミライシコウ金沢に参加した学校を対象に、閲覧できるようにします。



8. 注意事項

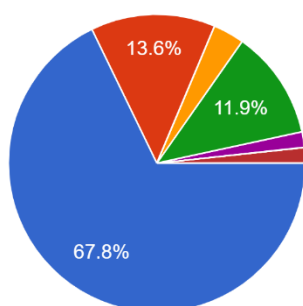
- ・各学校の先生の引率が参加条件となります。
 - ・午前中のみ参加，午後のみ参加などの要望があれば，事前にお知らせください。
 - ・ポスター発表者は，各校にてA0版に印刷して，当日持参してください。
- (パワーポイント資料発表については，パソコンや発表資料は準備させていただきます。)
- ・当日は，各自昼食持参となります。
 - ・筆記用具持参をお願いします。(当日，発表者に対してコメントペーパーを書くため)



7. 事後アンケート

今回はどのような関係でこの発表会にお越しになりましたか。

59 件の回答

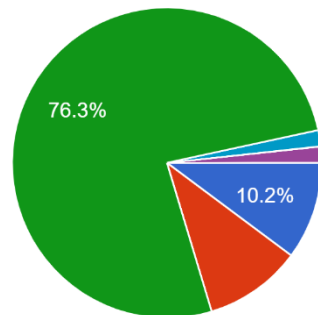


- 高校生探究成果発表会の発表生徒
- 高校生国際会議の参加者
- 見学・運営の高校生
- 参加校教員
- 参加校以外の教員
- 大学教員・助言者・審査員
- 大学生・大学院生
- 高校探究プロジェクト関係者

▲ 1/2 ▼

あなたの高校や大学、勤務先の所在地域をお知らせください。（一つだけ）

59 件の回答

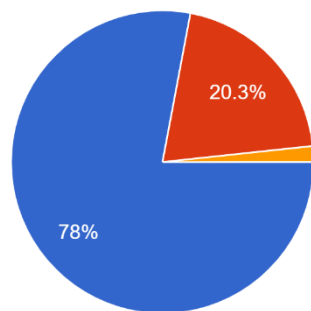


- 北海道・東北（北海道・青森県・岩手...
- 関東（茨城県・栃木県・群馬県・埼玉...
- 甲信越（新潟県・長野県・山梨県）
- 北陸（富山県・石川県・福井県）
- 東海（静岡県・愛知県・岐阜県・三重...
- 近畿（滋賀県・京都府・大阪府・奈良...
- 四国（徳島県・香川県・愛媛県・高知...
- 中国（鳥取県・島根県・岡山県・広島...

▲ 1/2 ▼

ミライシコウ金沢に参加して全体的にどのように思...ましたか。あてはまるものをお知らせください。

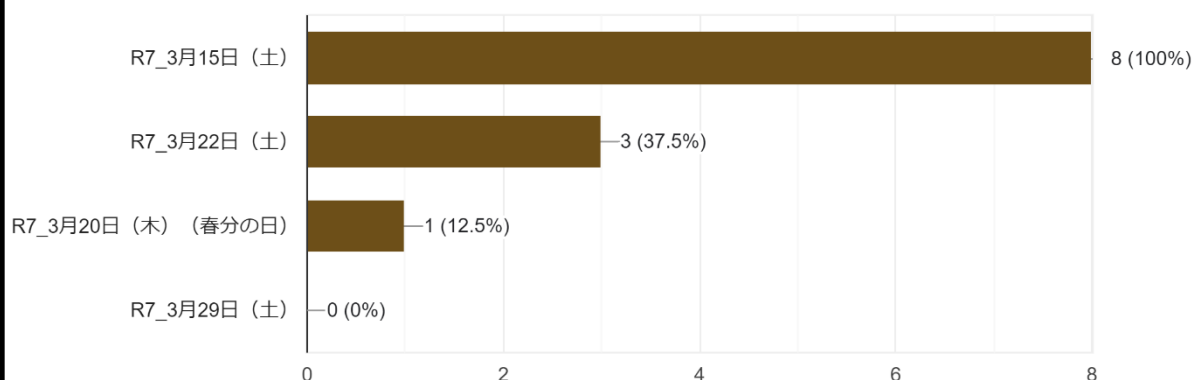
59 件の回答



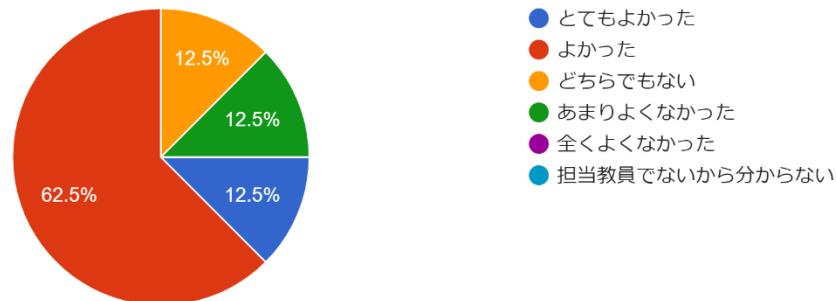
- とてもよかった
- ややよかった
- どちらでもない
- あまりよくなかった
- 全くよくなかった

来年度の日程調整にご協力ください。以下のでミラ...合はチェックしないでください。（いくつでも）

8 件の回答



ミライシコウ金沢の申込案内・申込手続きについて...ようか。あてはまるものを一つ選んでください。
8 件の回答



本日にいたるまでのミライシコウ金沢の申込案内，申込手続きに関する感想などあれば教えてください。

3 件の回答

案内をいただくのが遅くなってしまい手続きが慌しくなりました。HPにも情報を載せていただけると嬉しいです。

最終案内をいただいて、生徒への連絡もしやすかったです。ありがとうございました。

今回は郵送物が担当者に届いたため申し込みができた。簡易でいいのでHPや申し込みサイトがあると、申し込み漏れが減ると思います。

貴校の生徒たちが，もっと気軽に，ミライシコウ金沢（国際会議・探究成果発表会）に参加しやすくなるために，こういった工夫が必要でしょうか。もしそのような工夫があれば，教えてください。

4 件の回答

国際会議については、過去の動画があると、求められる英語力がわかって案内しやすい。

教員による生徒たちへの声かけが重要かと思います。そのためにも私自身様々な学校の先生方とのつながりを大切にしていきたいと思いました。

昨年度と異なり、今回は教室での発表でしたので、ポスター発表は適していないと感じました。字が小さくなり、うしろに座っている参加者には見えなかったと思います。

雰囲気を柔らかくする

金沢大学附属高校は 来年度 1 1 月 1 5 日(金)に研究大会（授業研究や探究など）を予定しています。皆さまのお声を参考にしたいのですが、「●●という内容であつたら興味がある」,「▲▲というテーマであつたら興味が生まれる」というものがあれば教えてください。

（日頃の授業や指導の中で、苦戦している部分を教えていただければ幸いです。可能な限り、声を活かして設計したいので、もし期待したい内容があれば、教えていただけますと幸いです。）

3 件の回答

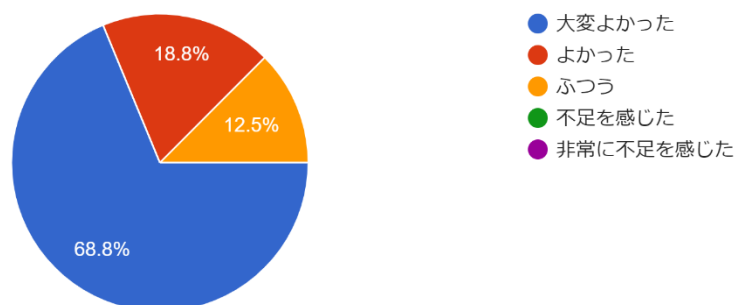
インバウンドに関連した様々な事象（国内への影響、海外の暮らしとの比較など）があると、参考になる。

建築、まちづくりは大変興味があります。（少子高齢化、限界集落、医療体制、働き方など）

前回ミライシコウ金沢に参加して、金沢を始め北陸の生徒さんは地域との繋がりを感じられるテーマが多く感じています。地域と学校の連携をどのように工夫しているのか、それは探究以外でも見られるのかを知りたいです。昨今の教育課題という面では、主体性をどのように育成し評価しているのかは気になります。

高校生国際会議はいかがでしたか？あてはまるものをお知らせください。（一つだけ）

16 件の回答



高校生国際会議についての感想をご自由にお書きください。

12 件の回答

内容はとても良かった。ただ、生徒たちの英語力が運営側の想定レベルに達していたのか気になった。

最初は自分の英語力の低さに不安を感じていたけれど講義の内容はしっかり聞き取ることができよかったため。午後からのディスカッションも他校の人たちと交流を深めつつ考えることができました

自身の英語力の未熟さを実感しました。今後の英語の勉強のモチベーションに繋がったので、今回の経験を忘れずに活かしたいです。

気候変動の深刻さや、世界がそれに向けてどのような解決策を考えているのかについて知ることができ、有意義な時間を過ごすことが出来ました。自分でできる環境活動に参加してみたり、今後の学校生活での活動に繋がったりしていきたいです。

午前、午後と充実した内容だったと感じています。

常に英語という経験を出来てとてもよかった

少ししか参観していませんが、佐座マナさんの講義がとてもよかったと思います。年齢も生徒たちに近く、若い人たちにとってのロールモデルとなったと思います。

もう少しディスカッションの時間があればよかったかなと思います。また、可能であれば、各グループに一人ずつでも留学生などが入ってもらえると良かったと思います。

環境問題の基本的なことについては以前から知ってはいたが、今回より専門的な先生方の講義を受けたりワークショップを行ったりしたことで、より深刻により身近に感じられた。世界的な活動についても知ることができ、また、さまざまな県の人達との交流ができて視野も広まった。今回の国際会議での貴重な体験を活かして、まずは学校や地域で環境問題について知ってもらい、解決に取り組んでいきたい。

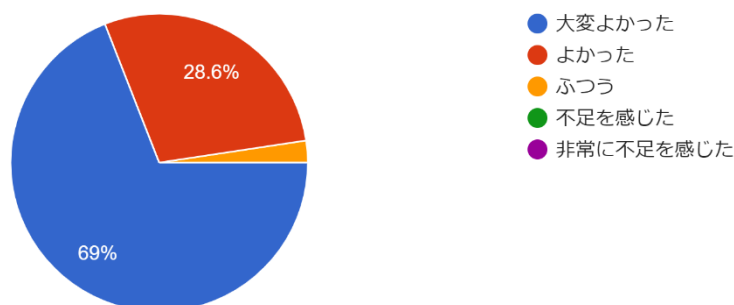
最初は英語で他の人と話せるか心配だったけど、同じグループの人達が明るくて私の話を丁寧に聞いてくれたので、楽しく気楽に話し合いをすることが出来ました！私だけが石川県外から来ていたけれど、私の話に驚いてくれたり、石川の高校生活などについて色々知ることが出来たので良かったです。また、講師の先生の英語がとても聞き取りやすく、聞いていて楽しい話し方をされていたので英語を聞くことがとても楽しかったです！貴重な時間をありがとうございました！

金沢市の生物多様性について、今まで当たり前に思っていたけれど他と比べると特殊な土地柄であると実感しました。また、ワークショップでは気候変動について、いつどこでだれにを意識しながら意見交換できました。他の学校の高校生から面白い提案やアドバイスをもらうことができたので今後自分の学校や地域、家族へ共有し実践していきたいと思いました。

生徒にとって、英語の勉強や探求活動を頑張る刺激になりました。

高校生探究成果発表会はいかがでしたか？あてはまるものをお知らせください。（一つだけ）

42 件の回答



高校生探究成果発表会についての感想をご自由にお書きください。

32 件の回答

似たようなテーマの班で集まっていたので、ほかの班の人の研究を聞いてより自分たちの研究内容を深められるようなアイデアが貰えたと思うので良かったです。

助言講師の先生方が、発表に対して温かい助言を行ってくださり、生徒を励ます機会としてとても助かった。高校生は研究者ではなく学生だから、それが稚拙なものであっても、自分の好きなことを一生懸命やっている姿を褒めてやるのが大切だと思いました。一方、助言講師の先生方がいる分、生徒同士の交流（気軽な質問）がしにくいように感じました。生徒同士のつながりが生まれると長期的に見たとき、さらに良い機会となると感じました。

私は文系よりの探究活動をしている理系なので理系らしい発表が見れて満足でした。

探求発表を見て、様々な新しい発見を得られたのでよかった。

他校の探究の着目点が色々知れていい収穫となった。

他の学校の人々の研究活動について聞くことができたり、自分の研究についてのアドバイスをもらえることができ、良い刺激を受けることができた。

社会に出てから、役立つ知識を多く得ることができ、充実した1日だった。自分の発表はあまりの人と比べると改善点が多く見られたので、今日学んだプレゼン術を活かしていきたい。

他校の生徒の探求の成果について知ることができ、勉強になり、とても面白かった。発表をすることで自分たちの探求活動をさらに深めるきっかけになった。とてもいい機会になった。

発表時間がわかりにくかったので、8分たったらベルなどを鳴らしていただくとよりよくなると思います。

高校で行った課題探究発表会では得られなかった意見やよりよい研究にするためのアドバイスをいただくことができ、すごくいい経験になりました。他の参加者の発表も聞いて、とても興味深い話をたくさん聞けて新たな知識を得る機会になりました。

発表会に向けてスライドを作りいろいろ工夫したり、発表練習をしたりして自分たちの発表の質を高めることが、大変だったけど為になったと感じました。発表は緊張したけど練習した通りできて良かったです。また、町おこしの活動をする部活を自らつくり運営しているグループがあり、すごいと思いました。

全国の高校生の多様な研究発表を通して、斬新な視点や面白い発見など参加しなかったら得られなかった学びを得られた。今後の活動にもより意欲がわいた。

発表に対して助言者からのアドバイスを受けることが出来ていい経験になった。他の分科会の発表も聴けて、学びになった。

どのグループも具体的な数字や理由を示していたしそこから考えられることや改善するべきことなどを詳しく発表していてすごかったです。今回の発表会を通して自分達が高校生であるということを強みにしていければもっと深く探求活動を行っていけると思いました。

様々な方からのアドバイスを頂けて、色んな視点で考えることのできる良い機会になりました。また参加したいと思いました。

質問の時間をもう少し取れるようにしたかった

自分の探究を深めるきっかけができて良かった。

大学教授や、意識の高い学生の質問を受けることができ、自分の研究の発展について考えられるきっかけになった。

様々なことで高校の学習や、それ以上のことを学習し、実際にロボットや、バイオ燃料などで現実に落としこもうとしているのがとても刺激になりました。企画してくださった皆様ありがとうございました。

他の分科会のお話を聞く時間ももっと欲しかったのと、移動時間が10分になるとよりスムーズになると思いました。

やはり、専門的な知識や興味を持った人と交流するのは楽しいしそこからの学びは計り知れないものだった。

たくさんの高校が生物についてだったり化学についてだったり様々な視点で深く研究をしていてとても興味深い発表ばかりだった

自分たちがやっていたことを全て出すことができて良かった。他の人たちの発表も聞けて有意義な時間を過ごせた。

同じような研究をしている人たちと出会い、さまざまな議論を交わすことができてより知見が深まった。

知らないことをたくさん知れて楽しかった

研究分野ごとに分科会が分かれているため、似たようなテーマの人の発表を聞いてよかった。同じようなテーマでも検証方法などの研究の進め方なども、他校の生徒から聞くことができて大変おもしろかった。自分の研究にはないような実践や資料の使い方など、こんな方法もあるんだと思うことばかりとても興味深かった。また、空きコマの時間には他の分科会の発表も見ることができ、まったく違う研究分野の発表を聞く事ができた。その発表を通して、直接同じような方法を取らなくても、こんな風に先行研究を扱ったりデータを扱えばより良いなと参考にできるところもたくさんあった。今日の発表でもらった意見などを大切にして、これからも研究を進めていこうという良いモチベーションをもらえた。

普段の学校内の発表会では聞くことの出来ないレベルの高い発表を聞くことができて良かったです。発表の仕方もわかりやすい学校が多かったので、今後の参考にしたいと思いました。

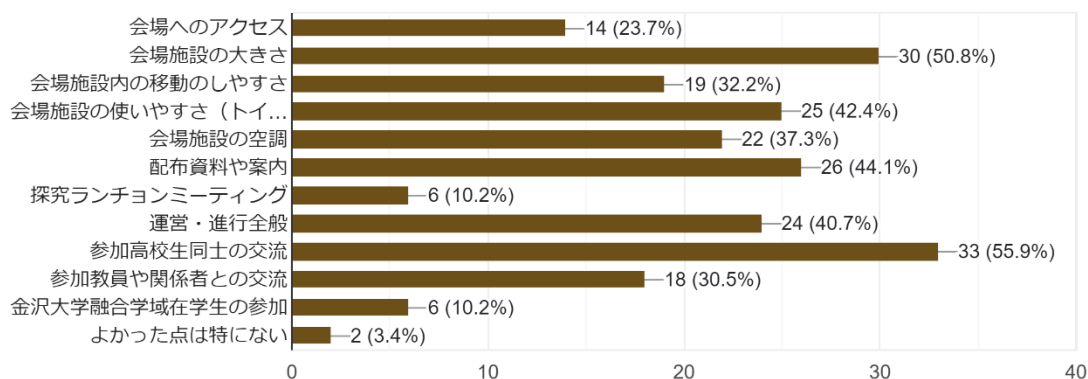
自身の研究に意見を頂き、探究を深められた上に他校の皆さんの研究発表を聴くことで知見を広げることが出来、とても有意義な時間になりました。

e-museumのスライドの一部文字がつぶれていた。スライドを掲載するなら、事前に教えてもらいたかった。

助言者からコメントを求めてもどうしても専門的で長くなってしまい時間がおしてしまった。質疑応答の時間を校内の学びの共有の日の時間より長くすればいいと思った。

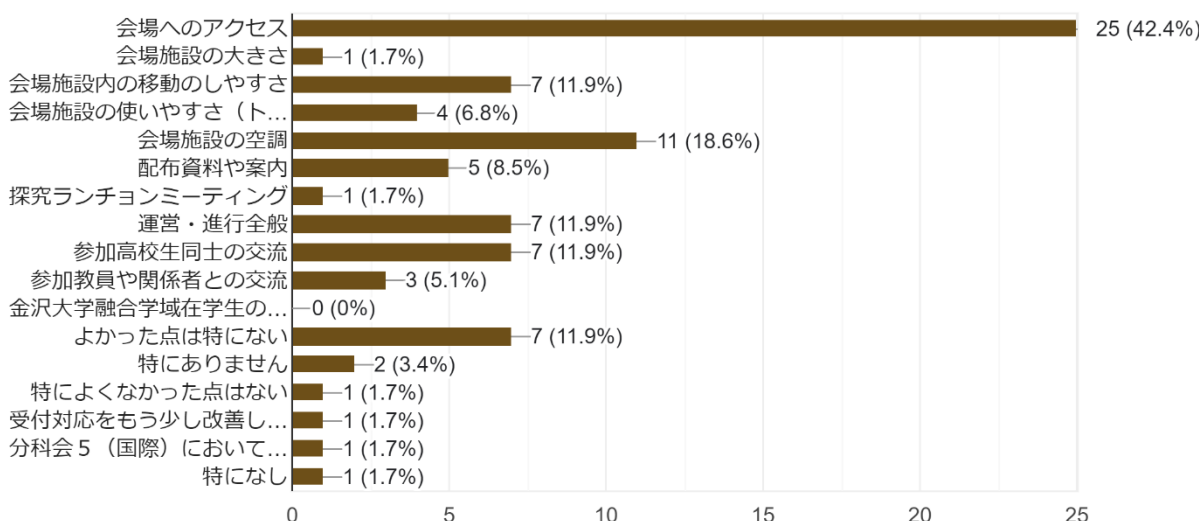
今回のミライシコウ金沢でよかった点をお知らせください。（いくつでも）

59 件の回答



今回のミライシコウ金沢で不足を感じた点、よくなかった点をお知らせください。（いくつでも）

59 件の回答



ミライシコウ金沢において、" おもしろい "と感じる点はどこでしょうか？より " おもしろく " なるために何が必要でしょうか？

39 件の回答

金沢大附属の生徒の、地元に対する想いは、本校生徒にはあまりない部分であるため、刺激になりました。口頭発表のみ、という点が、他校で行っている発表会とは異なる点だと思いました。例えば、6人グループ程度を複数作って口頭発表をお互いにするなど、生徒同士の交流に重点を置いた形式をとるなどすると面白いかもしれません。

より多くの学校が参加したらもっと自由な発想が見れて良いと思います。

県外の先進的な探究が知れる点は面白かった。附属高校や泉丘が、県外先進校レベルの探究をしてくれると、県内の探究がさらに活性化すると思う。

いろいろな分野の発表を見れる点。自分の発表に対して聞き手からコメントを得られる点。特に、教授方からのコメントは考え今後の探究だけではなく他のことにも生きてくると思った。より面白くなるには、違う分野の教授からもコメントを頂けるとためになるかもしれないと思った。

意見交換や質疑応答

面白い点 同年代の英語を話せる人が沢山集まること、環境問題についてかんがえられること。面白くなるために 英語を話すときと日本語を話すときの区別をはっきりさせる、聞き取れなかった単語を知るためにDrの話のなんとなくの台本が欲しい。

より多くの発表を聞きたかった。

面白いと感じたのは、県外の生徒とも交流できたところです。生徒同士で話し合う機会がもっとほしいです。

身内だけでは得られなかった見方が得られて研究がより深まっていく点がおもしろいと感じた。助言者だけでなく同年代の参加者からの意見が必要だと思う。

形式ばった発表もたいへんよいですが、自由に意見を述べられるような形式もよいのではないかと思います。

他の高校の研究の様子を知ることができたこと。発表する教室が広がったので発表形式をスライドに統一したりマイクを使えるようにしたりしたほうがより全体に発表を伝えられると思いました。

他の高校の生徒と交流ができることだと思います。交流をすることによって自分たちだけでは気づくことの出来なかった視点に気づくことができたりより発展させていくことができると思います。あとは高校生だからこそのことを沢山やっているで自分たちももっと出来るかもしれないという刺激をもらうこともできる所がおもしろい所だと思います。

他県の高校生との関わりで、その高校で行われている独自の活動について知ることができたことが面白かったです。また、レクチャーで自分で考えてみる時間があつたのでレクチャーをより積極的に聞くことが出来た。グループでの話し合いの時にもう少し自己紹介をする時間があると、もっとメンバーと打ち解けることができて楽しかったかもしれない。

他の方の発表で、良いと思った点を自分たちの研究に活かせる所は活かすことができるので、より良いものにしようと取り組める点がおもしろいと思った。

様々な探究活動がある中で、おなじテーマなのに視点が違って面白かった

各分科会で生徒同士のアイスブレイクがあると思った。

参加されていた生徒さんたちは皆、学んでいることを本当に楽しんでいるように見えました。生徒数ももちろんですが、教員や来客の方もさらに増えてくれば、生徒たちのモチベーションが上がると思います。（各教室の発表）

分科に分かれて発表することで、他のテーマの発表について書きたい時に、簡単に行くことができた。

意欲のある生徒同士で話し合えたこと

本校の場合、発表に参加する生徒と高校生会議に参加する生徒はわけていますが、もしかしたら発表をした生徒の中にも国際会議の方に出たいと思う生徒がいたかもしれません。例えば、発表を終えた生徒が途中から国際会議に参加するということは可能でしょうか？

事前に難しい用語を使う発表に関しては、目を通しておきたい

できるだけ違う課題を探究した方々の話を聞きたいです

何よりも他校の人と交流できたことが一番楽しかった。

もっと広域に知らせてもいいとおもう

分野ごとに色々な発表が聞けるところが面白いと思う。また規模が大きいので色々な考えに触れることができるのがいいと思う。

面白いと感じる点は小さいグループで専門性の高い人だけで集まって発表をできたことです。面白くなるためにはよりさまざまな研究をしている人を全国から集めることだと思う。

たくさんの高校の人と交流できること

自分とまったく異なるテーマで研究をしている同年代の人たちの研究を楽しんでいる姿勢。

生徒と教授の方々とのディスカッション

様々な発表が聞けること。

人文科学系の発表の場があり、かつグループの分け方に特色がありおもしろいと感じています。発表形式は前回の方がポスター発表聞きやすく、形式としてもユニークだと思っていたので講義室になったのは少し残念でした(前回寒い中での発表だったので変わって良かったのだと思いますが...)

さまざまな都道府県の人たちと交流することでより多角的な面からの意見が出たのがおもしろかった。参加者が活動を行う時間をもう少し増やしたらもっとおもしろくなるとおもう。

様々な視点から意見が聴けたことが面白かったです。生徒同士の交流の時間があまりとれなかったのも、もう少し意見交換したかったです。

国際会議で講師の先生がスライドに様々なクイズを取り入れて下さったのが面白かったし、メモを使って自分の意見を伝えるのはいいなと思いました。

例えば自己肯定感は後天的なものか先天的(家庭環境含む)なのかなど人によって考え方が違ったこと。より面白くなるためには発表を聞いたあと学生、教員関係なくディスカッションをすればいいと思う。分科会分野を専攻している大学生の意見も聞きたい。

国際会議では、実際に活躍している人を招いた講義が専門的なことに触れつつ高校生のレベルにあったものだと感じ、面白いと感じた。よりおもしろくなるには、国際会議では当日までの課題や調べることを設定して事前準備をするのがよいと感じた。

机に座って発表を聞くのも大切だけど、より発表者と聞き手の対話が生まれるような工夫が必要だと感じた。

多様な生徒が参加し、発表にもバリエーションがあること。

感想、今後に向けてのアドバイス、要望などがあれば、教えてください。

19 件の回答

ランチョンミーティングは、出遅れてたため、臆病になって参加できませんでした。遠方から参加したので、生徒・教員とも、臆病な教員や生徒にとっても交流しやすい仕組みがあると嬉しいです。

次年度も楽しみにするとともに、生徒に発表させられるよう、準備を進めていきます。

寒かったので暖房があるとよかった。

今回は、素晴らしい会をありがとうございました。今後は時間に気を取られない発表もしてもらいたいし、聴いてみたいです。

今回は誠にありがとうございました。駅からシャトルバス車内も含めて皆様の温かいおもてなしが嬉しく感じておりました。ああいった姿勢が生徒たちに伝わっているのだと感じました。今後ともよろしくお願いいたします。

会場の経路について、わかりやすく示していただけるともっといいと思います！会場広すぎて何回も迷子になりました――。

とても良い経験になった

アクセスの面で事前情報が上手く伝わっていなかった。

何度でも参加したいと思える集会だった。また招待してほしいと思えるくらい楽しかったし、学ぶことが多かった。

とても楽しく、短い時間ではありましたが勉強になりました。ありがとうございました。

空きコマに別の場所を見に行ったら次の発表に間に合わなくなる点

参加して良かったです

今回は分野ごとに発表を聞き、空いた時間に他分野の発表を聞きに行くというパターンでした。これは良かったと思います。コメントペーパーもたくさんもらえたとし、内容も近いものなので、質問などもしやすかったと思います。

次年度も時期が合えば参加したいと考えています。金大附属の皆様、準備等お疲れ様でした。ありがとうございました。

感想シートの回収が人によって変わっていて、担当の生徒さんが困っていたので統一してほしいです。

今日はたくさん英語に触れることが出来て本当に楽しかったです。ありがとうございました！

・受付で各高校の先生に封筒に書いてあることを口頭でも言う(袋の中の封筒読んでも先生少なかった)・コメントペーパーを集めて発表者に渡すのが難しかったから、集める方法などは各分科会統一した方がいいと思う。・部屋の大きさとポスター貼るボードの数があってなくてボードが部屋からはみ出すことがあった。・プログラム等は学校別手渡しも良かったけど全体会場の机に事前に置いておくはどうか。(貰いそびれを防ぐため)・生徒は準備していないから片付けの指示が少し難しく感じた。Slackを有効活用して写真でこれはここなど示されるとさらに片付け効率が上がると思った。・自分のやりたい役割を自分たちで決めれたから昨年よりモチベーションが高かった。・ポスターが広い部屋だと見えにくいからスクリーンにどーんと映すか、オンリーポスターセッションの時間を作るかなど何かしらの工夫があったらいいと思った。

県外、県内関わらず環境問題について関心を持つ高校生にたくさん出会えてました。今後もこの繋がりを維持して新しいことに挑戦したいです。来年もぜひ国際会議を実施してほしいです。

生徒が運営に携わっているのが良いと思います。ありがとうございました。